

終講挨拶

瀬戸内圏研究センター ゼネラルマネージャー 本城凡夫

これで本日の全ての課題が終了いたしました。

瀬戸内圏研究センターは、冒頭に多田センター長から話がありましたように 3 つのグループで構成されており、瀬戸内圏で問題になっている課題を掘り起こして研究し、その成果を地域に還元していくというスタイルをとっております。なかなか解決するということろまでは行かない部分もありますけれども、全くゼロではなく徐々に前進しておりますので、もう少し見守っていただければと思います。

先日、観光グループが行っている離島医療福祉研究会の島民を対象にしたアンケート調査結果をまとめて、ある島に報告に行つてまいりました。島が若返るための一歩として子供が病気になっても安心して育てることのできる島にならなければなりません。それから、今日の講演にもありました安心してお産のできる周産期の問題もしかりです。これらがしっかりとケアされていないことには島は若返ることができないという婦人部長からの話もありました。このことは確かであると思います。島民の平均年齢が上昇していることに焦点が当たっていますけれども、どのようにすると若い人が島に住み、若返った島で安心安全に暮らせるのかという考えがどうも必要であるように思います。その話の中で、遠隔診療をしてもらえるようになれば、わざわざ高松まで行かなくても良くて、安心安全な島での暮らしに大きく貢献するのではということになりました。このような問題は観光グループと地域医療グループが完全に連結して進めてきた成果でございます。

それから、瀬戸内国際芸術祭が始まって以降、香川県を訪問するお客様がすごく多くなりました。観光グループは、芸術祭を訪問した客がその後どこをどれだけの人数が訪れているかを観光客自身が写したInstagramのビッグデータを解析して数値的に示し、結果として、多くは四国の方に流れていて、四国 4 県の観光に恩恵をもたらしていることを明らかにしています。

海のグループは、瀬戸内海の栄養塩低下に伴うノリの色落ち被害が増えており、これをどのようにして解決するかの研究をしております。私はノリスカートを提案し努力をしてきましたけれども、流れの速い所での設置は今のところ栄養供給の面で難しいことが分かりました。しかし、流れがある程度弱い場所ならば確実に色を付けることができるという成果は得られております。流れの速い所でも設置して栄養を補給できるようになれば瀬戸内海のノリの質と生産量はもっと上がってくるはずですが。現在、その実現に向けて努力がなされているところです。

また、アサリの減少や干潟の減少の問題もあります。現在、これらについて懸命に取り組んでいるところです。

こういった諸課題を解決していくには、大学の中だけではどうしてもマンネリ化してきます。そこで、今日のような学術講演で外部の方に話をさせていただき、その知識を取り込み、センターの中でさらにステップアップを図り、解決の糸口を掴もうと心がけております。

今日、3人の先生からお話をいただきました。我々の知らない部分などがたくさんありました。これらを新たな知識として取り込み、頭の中で揉み上げてワンステップ上がり、問題解決に対処したいと思っております。今後とも瀬戸内圏研究センターをよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

これで学術講演会を終わりたいと思います。